

平成 29 年度 第 1 回学校協議会報告

日時：平成 29 年 9 月 2 日（土）13 時～15 時

会場：東大谷高等学校 多目的室 1

1. 校長挨拶

2. 協議会委員自己紹介（敬称略）

委員：東 京子氏 有本昌剛氏 出口雄一氏 西村治也氏 堀川 浩氏
 松田昌利氏 宮坂政宏氏 （欠席）至 孝也氏 中村俊一氏

事務局：神代一徳（校長） 長尾文孝（教頭） 市居政彦（進路指導部長） 橋本壽志（指導部長）

井之元剛（校務部長） 東明美（教務部長） 出水謙一郎（入試対策部長） 志藤真裕（情報部長）

3. 議事

（1）平成 29 年度当初生徒概況

- ・生徒在籍数 ・高校入試概況

（2）平成 29 年度学校経営目標

- ・高大連携の強化……薬剤師育成プログラム先行実施 教員養成プログラム構想中
- ・進学コース……高大連携と選抜クラス
- ・国際コース……海外留学（ニュージーランド）本年度希望 60 名中 25 名（昨年 18 名）
- ・特進コース……国公立 30 名関関同立 100 名を目標に学習の効率化を図る。

（3）大谷学園薬剤師育成プログラム

- ・概要説明……1 年生でガイダンス・特別セミナーによりモチベーションアップを図る。2, 3 年生では大学に必要な学力（数学Ⅲ・物理・科学・生物）を習得する。そして大学へ送り出す。
- ・高大連携はメリットが多い。大学での内容を中学生にも示してゆけば、今後アピールポイントになる。

（4）授業アンケートについて

- ・評価の低い設問 3「予習復習について」と他の項目の相関を調べてみたらどうか。
- ・設問 1「授業に向かう積極性」、設問 3 は、「自ら学ぶ」アクティブラーニングに関する項目である。
- ・否定的な意見を持つ生徒をどう指導してゆくかが大切である。
- ・アンケートが授業改善にどう生かされるのか、先生方の意識の持ち方が大事である。

（5）その他

- ・東大谷には「探究ゼミ」「10 年未来プロジェクト」「宗教」等の積み上げがあり、独自のアクティブラーニングを行う環境ができています。カリキュラムを整えれば有効なものとなる。その手法を各教科でどのように活かしていくかが次の課題となる。
- ・留学をより効果的なプログラムとするために、目的の設定と検証を繰り返し行わせる。
- ・知識量をそのままに学力の 3 要素を育てる時間を確保するためには ICT 機器を用いた授業の効率化が必要となる。